

第41回原子力委員会定例会議議事録

1. 日 時 令和2年12月15日（火）13:30～13:40

2. 場 所 中央合同庁舎第8号館6階623会議室

3. 出席者 内閣府原子力委員会

岡委員長、佐野委員、中西委員

内閣府原子力政策担当室

竹内参事官、實國参事官、下村補佐

4. 議 題

(1) 美浜発電所3号炉・大飯発電所3号炉及び4号炉の発電用原子炉設置変更許可について（有毒ガス防護）（答申）

(2) その他

5. 審議事項

（岡委員長）それでは時間になりましたので、ただいまから第41回原子力委員会を開催いたします。

本日の議題ですが、一つ目が、美浜発電所3号炉・大飯発電所3号炉及び4号炉の発電用原子炉設置変更許可について（有毒ガス防護）（答申）です。二つ目はその他です。

それでは、事務局から説明をお願いします。

（竹内参事官）一つ目の議題は、美浜3号炉・大飯3号炉、4号炉の設置変更許可についての答申でございます。

それでは、事務局から御説明の方をよろしく願いいたします。

（下村補佐）事務局から御説明させていただきます。

資料第1-1号を御覧ください。

本件は、美浜3号炉の設置変更許可についての答申案ということで、特定重大事故等対象施設に対する有毒ガス防護対策に係るものです。

答申案ですが、原子力規制委員会から意見照会のあった標記の件に係る原子炉等規制法第

43条の3の8第2項において準用する同法第43条の3の6第1項第1号に規定する許可の基準の適用についての原子力委員会の意見は、別紙のとおりである。

次のページを御覧ください。

別紙としまして、本件申請については、発電用原子炉の使用の目的が商業発電用のためであること。

使用済燃料については、再処理等抛出金法に基づく抛出金の納付先である使用済燃料再処理機構から受託した、国内再処理事業者において再処理を行うことを原則とし、再処理されるまでの間、適切に貯蔵・管理するということ。

海外において再処理が行われる場合は、再処理等抛出金法の下で我が国が原子力協定を締結している国の再処理事業者において実施する、海外再処理によって得られるプルトニウムは国内に持ち帰る、また、再処理によって得られるプルトニウムを海外に移転しようとするときは、政府の承認を受けるということ。

等の諸点については、その妥当性が確認されていること、加えて我が国では当該発電用原子炉も対象に含めた保障措置活動を通じて、国内の全ての核物質が平和的活動にとどまっているとの結論をIAEAから得ていること、また、本件に関して得られた全ての情報を総合的に検討した結果から、当該発電用原子炉が平和の目的以外に利用されるおそれがないものと認められるとする原子力規制委員会の判断は妥当である。

本件は、資料第1-2号にあります大飯発電所3号炉、4号炉についても同じ答申案の内容となっていますので、こちらの説明を省略させていただきます。

以上です。

(岡委員長) ありがとうございます。

それでは質疑を行います。

佐野委員からお願いします。

(佐野委員) 御説明ありがとうございます。私は特に異議はございません。これで結構だと思います。

(中西委員) 御説明ありがとうございました。私もこれで結構だと思います。

(岡委員長) ありがとうございます。私も異議はありません。

それでは、本日の答申についてはこれで終了です。

議題1は以上です。

議題2はその他。

(竹内参事官) 今後の会議予定について御案内いたします。

次回の開催につきましては、日時、12月22日14時から、場所、8号館6階623会議室、議題については調整中であり、後日、原子力委員会ホームページ等の開催案内をもってお知らせいたします。

(岡委員長) ありがとうございます。そのほか、委員から何か御発言ございますか。

(佐野委員) 本日が岡委員長の最後の原子力委員会ということで、一言申し上げたいと思います。

2015年の12月に原子力委員会委員長に就任されてから6年間という長い間、本当にお疲れさまでございました。私は後半の3年間でしたが、明日から新しい体制で原子力委員会が始まるということで、岡委員長の残された様々なレガシーを大切に、一層職務に励みたいと思います。

今後、岡委員長の御健勝とますますの御活躍をお祈りしたいと思います。ありがとうございました。

(中西委員) 岡委員長は、この6年間、原子力委員会、日本の原子力がどうなるかということをも物すごく真剣に悩まれ、誠意をもって取り組まれてこられた。社会貢献の意義を通しまして、感謝を述べたいと思います。どうもありがとうございました。

(岡委員長) ありがとうございました。過分なお言葉を頂戴し恐縮です。これまで務めることができたのは、原子力委員と委員会事務局の皆様、関係者の皆様のご支援・ご協力のおかげです。心より感謝申し上げます。考えたことはメールマガジンなどで発表させていただいております。大学教員だったときに、頻繁に海外に出かけて、海外の原子力やエネルギー関係の動向に触れていたのが、原子力委員会で日本の原子力の課題を考えるのに参考になりました。当時は役に立つとは思わなかったのですけれども。

日本の原子力は、国民の理解をはじめ、様々な課題を抱えていますが、安価で安定で安全なエネルギー供給に役立ちます。放射線利用分野も放射光や加速器医療など様々な形で役立ち、発展しています。原子力は今後も大きい役割を果たせると思います。長い間ありがとうございました。原子力委員会と日本の原子力利用の発展を祈っております。ありがとうございました。

それでは、本日の委員会をこれで終わりたいと思います。